



全国財務局長会議 席上配付資料

- I. 最近の福岡財務支局管内の経済情勢
- II. 人的資本の高度化や生産性向上に先進的に取り組む地域企業について

令和6年2月1日
福岡財務支局

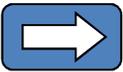
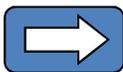
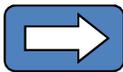
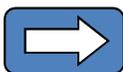
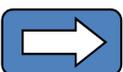
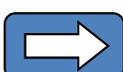
I . 最近の福岡財務支局管内の経済情勢

I. 最近の福岡財務支局管内の経済情勢

	前回（5年10月判断）	今回（6年1月判断）	前回比較	総括判断の要点
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある		個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

〔先行き〕

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、海外景気の下振れや物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

	前回（5年10月判断）	今回（6年1月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復している	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復している	
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
設備投資	5年度は増加見込み	5年度は増加見込み	
企業収益	5年度は減益見込み	5年度は増益見込み	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
輸 出	前年を上回っている	前年を上回っている	

※ 6年1月判断は、前回5年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

Ⅱ．人的資本の高度化や生産性向上に 先進的に取り組む地域企業について

Ⅱ. 人的資本の高度化や生産性向上に先進的に取り組む地域企業（企業事例）



健康な体ときれいな水を守る。

シャボン玉石けん

1910年創業
資本金：1億円
事業内容：無添加石けんの製造（業種：化学工業）

本社：福岡県北九州市若松区
従業員数：143名

1. 背景・課題

● 事業基盤の進化・強化の必要性 （製造部門）

- ✓ コロナ禍以降、石けん・洗剤の需要が拡大
- ✓ 製造は昔ながらの製法（釜炊き・ケン化法）であり、工場内は高温となるため、職員の安全管理が必要
- ✓ 品質向上のため製品の検品作業などで改善の余地あり
- ✓ 海外情勢により原材料（パーム油等）価格が大きく左右される



森田隼人 社長

（販売部門）

- ✓ プロモーション等を活用した販路開拓の必要性

2-1. 生産性向上・人的資本高度化への取組①

● スマートファクトリー化の推進

- ✓ 社内にスマートファクトリー推進課を設置しIT人材を育成
- ✓ 2023年4月以降、ICT事業者（Qsol株）と共同研究を開始



ウェアラブルデバイス（イメージ）

腕時計型のウェアラブルデバイスを活用し、製造過程における職員の健康状態をモニタリング



工場内にカメラやセンサー等を設置し、生産性分析やエネルギー管理を実施



デジタル技術を活用し、製品の品質向上と生産効率化を実現 生産能力の向上により拡大する需要に対応

2-2. 生産性向上・人的資本高度化への取組②

● 本社機能の一部移転、工場拡張

- ✓ 2024年6月に本社機能の一部を移転
需要拡大に対応するため、空いたスペースに工場を拡張
製造ラインを増設し生産力を増強（現在の1.4倍）



拡張部分の工場（イメージ）

● 物流拠点の増設

- ✓ 2024年2月に関東地区に物流拠点を増設し、物流の効率化を図る

● POSデータを活用した販路開拓

- ✓ 他社製品との差別化を図るため、ユーザーの購買データを分析・活用

● 人材育成

- ✓ 製造現場（釜炊き工程）への新規採用職員の配置
- ✓ 外部機関が実施するセミナー等に積極的に職員を派遣



製造過程

3. 今後の展開

- ✓ 現在、手作業となっている作業工程（石けん釜）のデータ収集を行い、作業の効率化を推進するとともに、全数を対象とした検品作業を実施
- ✓ SNS等を活用し、積極的に情報発信を行うことで、他社製品との差別化を図るとともに、ECを含め販売チャネルを増強し市場拡大を図る
- ✓ 従来B to Cの取引が中心であったが、コロナウイルス感染拡大以降、医療機関等において当社製品の需要が増加しているほか、当社で開発した消火剤の販売など、今後はB to Bの取引にも注力したい

Ⅱ. 人的資本の高度化や生産性向上に先進的に取り組む地域企業（企業事例）



株式会社 やまやコミュニケーションズ

1974年創業
資本金：1億円
事業内容：辛子明太子等製造販売（7割）・外食事業等（3割）（業種：食料品製造業）

本社：福岡県粕屋郡篠栗町
従業員数：859名（単体、労働時間換算）
（業種：食料品製造業）

1. 背景・課題

● 製造環境の変化

- ✓ 旧本社・工場（1988年設立）の老朽化
- ✓ 福岡市東区に4つの工場が分立していることにより、食品衛生上の規定を守る上で、生産効率の課題
- ✓ 海外工場（ベトナム）における賃金上昇による国内回帰の動き
➔ 工場の集約・新設の必要性



山本正秀 社長

2-1. 生産性向上・人的資本高度化への取組①

● 本社・工場の集約、オートメーション化

- ✓ 2023年4月に本社機能を有する新工場を竣工し、福岡市東区に分立していた本社と4工場を集約 ⇒ 生産能力は1.3倍に向上
- ✓ 日本IBM(株)と共同開発したシステムにより、色や形状から原料（塩漬けたらこ）の等級を自動選別、ベテラン社員の技術をAIで承継
- ✓ 計量・ブレンド液の充填、包装の自動化、パレタイズシステムの導入により、作業工程の省人化を実現



YAMAYA FACTORY
TERRACE（工場見学窓）



AIでたらこの等級を自動選別



パレタイズシステム

工場集約や先端技術の活用により、生産能力を向上
健康経営や柔軟な働き方を促進



2-2. 生産性向上・人的資本高度化への取組②

● 本社の新設

- ✓ 社長を含め、ほぼ全社員のオフィスエリアをフリーアドレス制に
- ✓ ワンフロア化による部署の垣根を超えた協調体制の醸成



新社屋

● 人材育成

- ✓ 健康経営に関する取り組み
 - ・ フィットネスエリアやスタジオを設け、勤務時間内外で利用可能
 - ・ 医療保険付保により、社員の医療費負担軽減（対象：3年以上連続勤務・非喫煙者）
- ✓ IT・リベラルアーツ等の講座を月1開催
- ✓ 社用スマホを用いた通信講座の受講や資格取得支援



ワンフロア化したオフィス

3. 地域との連携

- ✓ 本社2Fに工場見学ルートと飲食・物販エリアを設け、地域住民・観光客・従業員が交流できる場として開放
- ✓ お遍路が有名な篠栗町にもちなんだ出来立て「八十八っ歩めんたい」の販売
- ✓ 学校給食における明太子提供や食育活動の実施

4. 今後の展開

- ✓ ベトナム工場については、欧州・東南アジア向けにシフト
東南アジアにおける外食店舗数を増やし、外食店で提供する商品を製造予定
- ✓ 「九州から世界へ、やまやスタンダードを。」の方針のもと、博多の食のみならず九州の食をブランディング



やまや農産事業ブランド
「果樹蔵」が実施する
いちご狩り体験